

特発性正常圧水頭症診療の最前線



- ◆ 講師: 数井 裕光 先生
(大阪大学大学院医学系研究科
精神医学分野/講師)
Dr. Hiroaki Kazui
(Department of Psychiatry, Osaka University Graduate School of Medicine)
- ◆ 日時: 平成28年7月8日(金) 18:30~ July 8 (FRI) from 6:30 p.m.
- ◆ 場所: 医学教育図書棟3階 第1講義室
Lecture room 1, Medical Education & Library Building 3F.

特発性正常圧水頭症 (iNPH) は、「治る認知症」の代表疾患として教科書などではよく取り上げられているが、日常臨床では必ずしも重要視されてこなかった。しかし認知症高齢者の増加に伴い、治療可能性が改めてクローズアップされ、最近、iNPH 診療ガイドラインも出版された。このような流れの中、研究的アプローチも進み、近年、iNPH に関する重要な知見が相次いで報告された。まず、我が国で行われた複数の疫学研究の結果から、iNPH が一般高齢者の 2.3% に存在する高頻度の疾患であることが明らかになった。また頭部 MRI 冠状断像で、「脳室拡大に加えて、シルビウス裂の拡大と高位円蓋部/正中部のクモ膜下腔の狭小化

(Disproportionately Enlarged Subarachnoid space Hydrocephalus : DESH) という所見が見つければ、シャント術により 60~70% という高い確率で、自立度を改善させることができること、この DESH 像は iNPH の 3 徴が顕在化する前から認められることが明らかになった。さらに脳に手術による損傷を与えない腰部クモ膜下腔-腹腔 (LP) シャント術の件数が我が国で増加し、現在では脳室-腹腔 (VP) シャント術の件数を上回った。そしてこの LP シャント術の有効性があらためて確認された。本講演では、以上のような知見を解説するとともに、最近、注目されている、アルツハイマー病との関係についても触れようと思っている。

- ◆ 担当: 神経精神医学 橋本 衛 准教授/Ass. Prof. M. Hashimoto (Department of Neuropsychiatry)
- ◆ レポート宛先/Essay (橋本准教授宛/To Ass. Prof. Hashimoto): m-hash@kumamoto-u.ac.jp
- ◆ レポート宛先/Essay (CC: 医学教務/Student Affairs Sec.): iyg-igaku@jim.kumamoto-u.ac.jp